

UAV(Unmanned Aerial Vehicle)計測

～スピーディな現況把握、現況測量～

景観撮影、ビデオ撮影、360°（全周囲）撮影、コース撮影に対応



UAV撮影

モニターによる画像確認

撮影画像	概要
景観（静止画）撮影	撮影時にモニターを見ながら撮影範囲、方向を確認できます。必要とする画像が取得できます。
ビデオ撮影	カメラのモードをビデオにすることによりビデオ撮影ができます。静止画とビデオ画像の併用により、よりの確な現況把握が可能になります。
360°（全周囲）撮影	複数台のカメラを連結することにより360°切れ目のない全周囲画像が作成できます。
コース撮影	航空写真測量と同様なコース撮影を行うことで、3次元地形モデル、オルソフォト、地形図等を作成することができます。

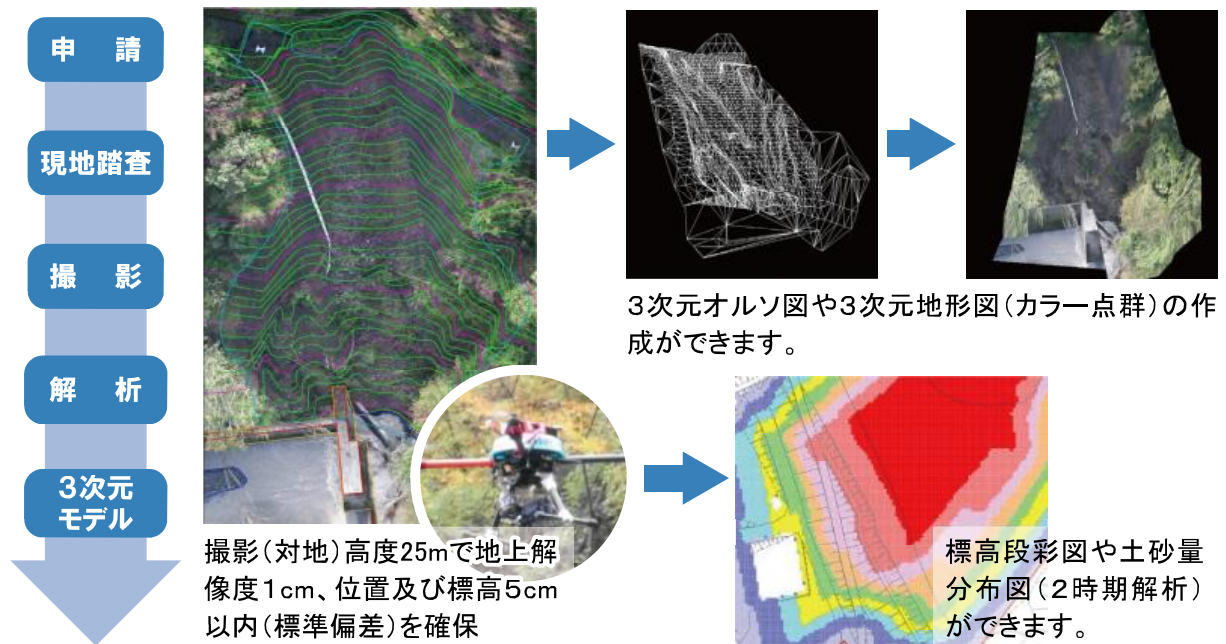
活用用途

分野	用途	概要
自然災害	土砂災害、火山災害、洪水災害	情報収集、状況把握
社会インフラ	施設点検、モニタリング	ダム、橋梁、その他
農業・森林	育成調査	植生調査、育成調査、松枯れ調査
遺跡・遺構	調査、文献作成	遺構図作成、3次元モデル
広告・宣伝	情報提供	景観撮影、ビデオ撮影



3次元地形測量への利用

造成工事等での土量算出、土砂災害での現況測量は、TSや地上レーザーにより測量が行われています。測量範囲によりますが、多くの日数と人工を要しています。UAVによる撮影では短時間かつ少人数での作業により、標高モデル（3次元モデル）の作成ができます。



UAVの測量適用範囲

測量方法	計測範囲	天候の影響	安全性	精度	日数
TS測量	狭	小	低	高	多
地上レーザ計測	↓	↓	↓	↑	↓
UAV撮影	↓	↓	↓	↑	↓
航空レーザ計測	↓	↓	↓	↑	↓
航空写真	広	大	高	低	少

計測の条件(安全管理)

- 操縦士からの目視内飛行とし、夜間操作は行いません。
- 現地踏査により飛行に障害があるときは、飛行方法を協議させていただきます。
- 降雨、降雪時、風速8m/S(地上)以上での撮影はできません。
- 「改正航空法」及び社内で定める「飛行マニュアル」に準拠します。